

審査総評

福岡市都市景観賞は、福岡のまちの魅力を創りだしている建物や通り、企画や活動に関係している人たちの努力を讃え、広く市民に伝えることを目的として創設された賞であり、市民の推薦・応募に基づき審査します。今年は、809件の応募があり、ランドスケープ、建築、広告、活動の四部門を設けて審査を行いました。

「水上公園 SHIP'S GARDEN」は、長年にわたって市民に親しまれた空間の記憶を継承しつつ、新たな場づくりに挑戦した公園であり、回遊できる動線を確保して地上から屋上までを繋ぎ、人々が自由に休憩できるよう配慮するとともに、周囲から「見られる」ことを意識した開放的な施設づくりに努め、福岡の新しい顔を実現しています。委員全員の一致した高い評価を得て、大賞を贈ることとなりました。

ランドスケープ部門では、「九州産業大学キャンパス」を部門賞として選定しました。キャンパスの建築群を繋ぐオープンスペースの修景であり、斜面の地形を活かして階段状の単位空間が重なって連続し、学生の多様な活動、休憩や交流を誘発する広場を構成しています。

建築部門では、「なみきスクエア」を部門賞として選定しました。室内の単位空間がエントランスホールの空間と「見る-見られる」関係を有し、開放性の高い構造形式と輻射冷暖房を採用しており、建築の内から外部空間へと自然に繋がっています。基本的機能を押さえつつ、複合文化施設が有すべき安心感と緊張感を備えた秀逸な建築空間を実現しています。

広告部門では、「エコ・ミュゼ はかた博物館」を部門賞として選定しました。どこにでもありそうな電柱巻き広告に書かれている内容が広告という概念を超え、地域社会に密着し、博多の歴史や文化を後世に伝え、社会性のある広告となっており、今後の展開が期待されます。

活動部門では、「博多ライトアップウォーク」を部門賞として選定しました。ライトアップされた博多の美しさ、歴史文化の価値を気付かせるこの活動は、関係者が創意工夫を重ねて継続しており、博多の町の魅力を大いに引き出すイベントとして定着しています。

この他にも、数々の力作の応募があり、委員全員の1回目の採点に基づいて選定した候補24件を委員全員で見て回りました。その直後に開催した最終審査委員会で、2回目の採点後に、全委員の意見を出し合って議論し、必要に応じて委員が採点を修正したうえで、全員一致による結論を得たものです。それぞれの専門性を尊重しつつ、多角的かつ公正な審査を行うことができたと思います。

今後も、福岡の都市景観に寄与する素晴らしい建築、ランドスケープ、屋外広告、活動が数多く生まれることで、都市が発展することを願っています。

福岡市都市景観賞審査委員会委員長 坂井猛（九州大学教授）



ランドスケープ賞
Landscape Prize

九州産業大学 キャンパス・ランドスケープ

キャンパスという「場」に求められる行為を読み解き、学生の多様な活動を促すデザイン・ユニットが丁寧に繋がれている。随所に着座可能な空間的工夫が散りばめられ、学生の休憩や交流を誘発するデザインが施されている。既存斜面を活かした階段広場は、移動と交流をあわせ持つ印象的なランドスケープを呈している。また中央広場は、多種の植栽や既存の水路、高低差のある地形を活かした空間形成によって、校舎間をリズムカルに連結している。曲線と直線が織りなす豊かな本キャンパスの風景は、きっと学生たちの笑顔にも繋がっているであろう。本設計にランドスケープ・デザイナーとして尽力された、故古家英俊氏に心から敬意を表したい。



建築賞
Architecture Prize



なみきスクエア

図書館、ホール、音楽練習室などが複合した文化施設であり、開館間もないながらも既に多くの市民に利用されている。建物には開放感を制限する壁や梁が少なく、耐震性を確保しながらも非常に開放性の高い構造形式となっている。床面積を確保するために、建物は敷地いっぱいに建てられているが、外周部やテラスなどに配された大小様々な植栽が、通りからも室内からも効果的に見えるように工夫されている。照明が点灯した夕方以降は、室内の活動の様子が外からもよく見え、街並みに賑わいを与えている。見通しよく大小様々な部屋を結びつけている大きな吹抜のあるエントランスホールは、街路の延長のような場所であり、穏やかに体感温度を調整する輻射冷暖房によって、季節を問わずに快適な環境が提供されている。



大賞
A Grand Prize



水上公園 SHIP'S GARDEN

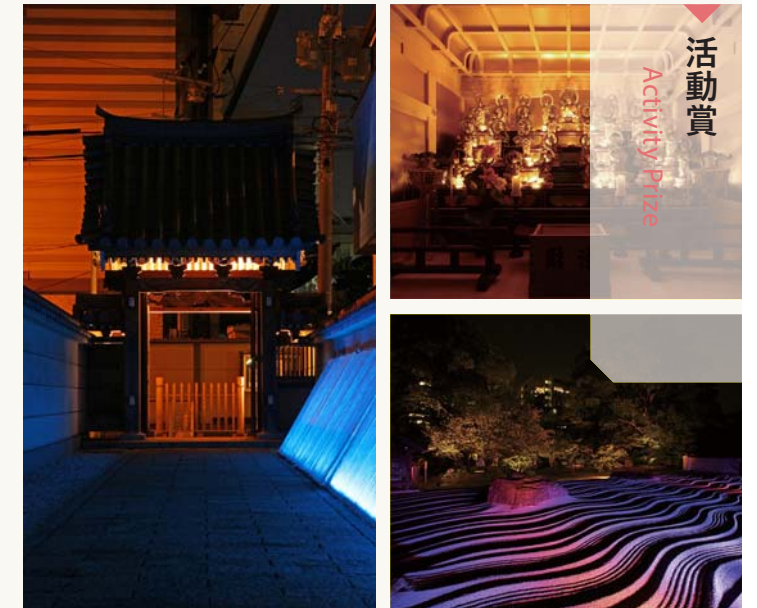
長年にわたって市民に親しまれた空間の記憶を継承しつつ、新たな場づくりに挑戦した公園である。河川や街路越しに周辺の建築群や緑を「見渡せる」好立地を巧みに活かし、回遊できる動線を確保して地上から屋上までを繋ぎ、人々が自由に休憩できるよう配慮している。周囲から「見られる」ことを意識して裏をつくらず、開放的な施設づくりに努めるとともに、日没後のアクティビティにも配慮し、①リバーサイドの新しい光景、②眺望を楽しむ光、③アプローチの光、④緑の表情を取り込む光、⑤水際を演出する光、⑥アートを際立てる照明演出、⑦ランドスケープと一体となる光、⑧暗がりをつくらぬ安心の光によって、福岡の新しい顔を実現している。



広告賞
Billboard Prize

エコ・ミュゼ はかた博物館 電柱 歴史案内 2000 年 本プロジェクト

「エコ・ミュゼ はかた博物館」は、博多区の市民団体「ハカタ・リバイバル・プラン」が史実に基づき、歴史的事件が起こった土地や歴史上の人物がいた地点に、縦150cm×横33cmの電柱の巻き広告を設置し、博多の魅力を伝える歴史案内看板である。一見どこにでもありそうな電柱巻き広告の形式であるが、そこに書かれている内容は、広告という概念を超え、人々に博多2,000年の歴史を伝えるタイムマシンのような存在であり、読んでいくと引き込まれる。2009年に福岡広告協会から高い評価を得て表彰されており、地域社会に密着し、博多の歴史や文化を後世に伝える、社会性のある広告と言える。現在、116本の電柱巻き広告を展開しており、博多から福岡都市圏に広がりを見せ、最終的に2,000本の設置を目標としている。今後も継続するこの活動に敬意を表したい。



活動賞
Activity Prize

博多ライトアップウォーク

博多部には、大陸との交流に彩られた、独特の物語にあふれた史跡が数多くある。しかし市民にとって、それらはあまりにも普通の日常の中にあるため、かえってその価値を認識する機会が少なかったのではないかと。博多ライトアップウォークは、年に1度、博多の寺社や町並みをライトアップする活動で、2008年の初開催から常に進化しながら現在に至り、今ではすっかり博多の景観として定着した。ライトアップされた町の非日常的な美しさの中で、歴史文化の価値が一つ一つ浮かび上がってくる。関係者の創意工夫の10年間で、長い歴史を刻んできた博多の町の魅力を次々と引き出している。その功績に感謝したい。